

令和2年度 奈良県立奈良高等学校 学校評価総括表

学校運営計画		総合評価	
教育目標	本校の教育の目標は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づき、人間尊重を基盤として、一人一人の人間を大切にし、その人がもっている能力、適性を最大限に伸ばし、未来の社会に期待される人間を育成することにある。そのために、豊かな人間性を持ち、絶えず知性を磨き、新しい文化の創造に努め、正しい価値観と倫理観をもって自主的な判断と行動のできる人間の育成を図る。	B	
教育方針	天平文化を象徴する校章『宝相華』を体し、新しい文化の創造に励み、民主的な社会の形成に努めるたくましい人間の育成を期し、本校教育は次の方針に基づいて推進する。 1 志操と思想を研ぎ、創造的な知性と技能を育て、豊かな個性の伸張を図る。 2 真実の自由と責任を自覚するとともに、敬愛と信頼に満ちた人間関係を醸成する。 3 積極的に文化・体育活動に参加し、明るく豊かで活力のある生活態度を養う。 4 人間尊重の精神を基盤として、人間としての在り方、生き方を自覚し、自らの行動を律する主体性を育てる。		
昨年度の成果と課題	今年度重点目標		具体的目標
生徒の学習意欲の向上、学習習慣の定着に成果をあげ、進路実績も一定の成果をあげた。 しかし、学習に主体的に取り組む姿勢には、まだ課題が残る。将来のキャリアを視野に入れた指導が、継続的に必要である。 また、授業改善のために、より質の高い授業、生徒が主体的に学べる授業を実践するための研究が大切である。 部活動や各種コンクールに真摯に取り組み、成果をあげた。今後も、学習との両立を図るため、バランスのとれた生活時間の配分が必要である。 校内での挨拶は定着しつつある。その一方で、遅刻の総数が、昨年よりも増加した。不注意の遅刻の減少及び通学マナーの向上を図る必要がある。 部活動中の熱中症等への予防に向けた取組を継続していく必要がある。	○ 生徒が主体的に物事を考え、判断し、行動しようとする姿勢を養う。 ○ 生徒の確かな学力と、社会の一員としての豊かな知性・人間性を育む。 ○ 探究的な授業を実践するため、授業改善に取り組む。 ○ SSHの第4期指定において基礎枠の充実と重点枠の新たな研究開発課題に向けた取組を推進する。 ○ 常に生徒の安全確保に努めるとともに、生命を大切にし、健康を保持増進する能力や態度を養う。 ○ 学習と部活動等との両立を推進する。 ○ 教員の働き方改革の趣旨に基づき、業務内容の検証を行う。		◇ 本校独自の単位制を充実させるとともに、個々の授業改善に取り組む。 ◇ 計画的、組織的な進路指導を展開するとともに、次年度の大学入試改革に備えて、さらに検討を進める。 ◇ 主体的な学習を促すためのガイダンス機能を更に充実させる。 ◇ 第4期4年目のSSH事業を企画・運営し、関係機関と連携しながら事業を推進するとともに、探究活動や授業改善に取り組む。 ◇ 社会のルールやマナー等の規範意識の醸成に努める。 ◇ 部活動や各種コンクールへの参加を推進する。 ◇ 読書の啓発に努めるとともに、文化的な行事の充実を図る。 ◇ 学校安全教育、防災教育に積極的に取り組む。 ◇ ボランティア活動を推進し、地域での活動を推進する。 ◇ 教育相談体制を充実させる。 ◇ 本校の教育活動についての情報を迅速かつ適切に発信する。 ◇ 熱中症予防に向けた具体的計画に基づき、その取組を展開する。 ◇ グローバルリーダーの育成をめざし、国際交流・留学を推進する。 ◇ ICT機器の整備及びICT機器を活用した授業づくりを推進する。 ◇ 部活動推進計画に基づいて部活動を運営する。特に、「奈良県部活動の在り方に関する方針」(令和2年4月)を踏まえた合理的、効率的な活動となるよう求める。 ◇ 各部、課において業務内容の整理を指示する。

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
教務部	新学習指導要領を見据えた教育課程の編成を更に進めていく。単位制を生かし、主体的に学習に取り組める態度及び修得した知識や技能を幅広く活用し、探究する能力を育む教育課程の編成を目指す。	教育課程委員会やSSH推進委員会、教科会議等を通じて、各教科やキャリア・マネジメント部、研究開発部の意見を出し合うとともに、本校の教育目標や教育方針、SSH指定研究の基本方針・内容についての共通理解を図る。その上で、本校で設置予定の各教科・科目や学校設定科目の内容を吟味し、設置学年や単位数、さらにその科目の実践方法を検討して教育課程を編成していく。	B	B	新教育課程の編成に向けて教育課程委員会、教科会議、分掌会議等を開催していく中で、各教科間での情報の共有、課題への取組が行われ、仮ではあるが教育課程を編成できた。また、コロナ禍でのICTの普及は成果であるが、主体的な学びへつなげていくことが課題である。	年度当初の在宅教育や分散登校に伴う評価区分及び評価方法の変更に適切に対応いただいた。新教育課程を視野に入れながら観点別評価の研究及び探究活動を進めるとともに、本年度、新型コロナウイルス感染対策で進んだICT機器の活用を今後も積極的に行い、生徒の主体的で様々な学びに向けた更なる研究をお願いしたい。
	生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、探究活動がより一層進展していくための指導方法の工夫や授業改善を目指す。また、それに伴う、観点別評価の取組やICT機器の積極的な利用方法についても研修を深めていく。	生徒の探究活動・課題解決学習の推進を様々な観点からアプローチし、主体的・対話的で深い学びの実現について研修を進めていく。具体的には、教科の枠を越えた授業交流の実施や、各教科で研究テーマを設定し、それに基づいた公開授業を行い、教員それぞれの授業力の向上と授業改善を図る。その中でICT機器の利用方法や、観点別評価方法についても研究を進めていく。	B			

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策	
キャリア・マネジメント部	キャリア・マネジメント課	生徒が自らの適性・能力を的確に把握し、伸ばさせることができるような方策を企画・実施し、適切な指導と情報提供を、計画的・効果的に行いながら、個に応じた進路指導を行う。	先生方の協力による様々な講習、外部講師や卒業生による講演・講話、キャリアホームルーム、大学探訪等を円滑に企画・実施することで、生徒の進路に対する意識高揚を図り、模擬試験結果等の効果的な分析と生徒個々への適切なフィードバックにより、生徒の自己理解と進路実現への取り組みを支援する。	A	B	B	自宅受験を含め模試を計画に沿って実施し、講習や外部講師による講演も方法や時期を工夫して、ほぼ例年並みに実施できた。進路相談等も個々の生徒に応じて献身的に実施し生徒の進路意識高揚に貢献できた。	様々な事業計画を予定通り実施できたのは、先生方の協力によるところが非常に大きく、感謝申し上げます。急な計画変更を余儀なくされる事態は今後も想定されるので、現状を維持するだけでなく、事業の精選、実施方法の改良、自己評価の充実を図り、教員の負担軽減も図りたい。	新しい大学入試制度に向けて多くの情報収集と指導上のポイントについて研修いただくとともに、計画的な模擬試験の実施により、生徒は安心して受験を迎えることができた。今後も入試問題の一層の研究を進める一方で、生徒の学力傾向についての研修を進めることで、大局的な視野に立って制度に影響されない学力の育成に取り組またい。
		様々な入試制度改革の初年度であることから、情報の収集・分析を行い、職員・生徒に向けて、効果的に情報を提供し、同時に教員の進路指導力を高める。	選抜制度の変化や大学入学共通テストに関して、教員が自信をもって指導し、生徒が安心して入試に臨めるよう、効果的な対策方法等の具体的な最新情報の提供に努める。模擬試験後の学年研修の充実、進路に関するホームルーム内容の提案と運営補助、外部研修への参加促進等に取り組む。	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
学校生活部	生徒指導課	生徒個々の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立を図る。	不注意による遅刻を防止するため、学年・生指課の連携を強め、継続的な指導を行って年間の総遅刻数を減少させる。また、明るく積極的な雰囲気満ちた学校づくりに努めさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻数に関して今年度は、在宅学習や分散登校があり経年比較はできないが、全体的に減少傾向があった。生徒に対する全体研修としては薬物乱用防止教室等リモートによる研修ができた。 コロナ渦の状況で仮設体育館や電子黒板、ならでんフィールドの施設を利用して、各行事を感染症対策に工夫して運営できた。課題は、地域と連携したボランティア活動が実践できなかったことである。 リモートでの人権講演会の実施やコロナ差別を扱った題材を提供するなど、ホームルームの実施に向けての方策を講じてきた。 高人数研究会や公開HR等多くの行事が中止になって研修の機会が激減し、校外では新会員研修会への参加しかできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 決められたルールを守るというのは社会生活の基本であり、生徒自らが行動に移すことが大切。その機会を作っていかなければならない。今までと同じやり方、同じ内容を続けるだけでなく、現在の状況に合わせた行事を企画運営するとともに、地域と連携したボランティア活動を模索する。 既存の学習テーマによるホームルームの充実を図るとともに、今日の新たな課題に対しても取り組めるようにしたい。 リモートでの研修参加という行事もあるので、情報発信を怠らないようにしたい。 	年度当初の臨時休校に始まり、分散登校、時差登校の導入など生徒にとって基本的な生活習慣を確立させることが難しい1年であった。引き続き、スマホの適切な使用を中心とする丁寧な生徒指導をお願いしたい。生徒会行事、人権学習においては、生徒の教育活動の保障という視点を大切にして、その実施に向けて工夫いただいた。とりわけ、電子黒板の活用により、所定の教育活動は維持できた。
		生徒の問題行動を未然に防ぐとともに、発生時の対応・指導を適切に行う。	施設の関係で、1年生の早い段階で学年集会、講演等ができない状態である。今後、機会を作って生徒の現在及び将来にわたって安全な社会生活を送るための知識を学ばせる。	B				
	生徒会指導課	自主創造の精神に基づき、生徒一人一人が学校活動の主役となり、生き生きとした生活を送れるようにする。	生徒会(総務委員会)と各種委員会との連携を密にし、各行事における役割を明確にするとともに、活動の活性化を図る。 学校生活における規範意識を高めるための活動を模索し、実行に移す。 活発な部活動を展開し、健康で心豊かな生徒の育成を図る。	A	B			
		地域や他校と連携したボランティア活動の充実を図る。	昨年度に続き、近隣の学校や周辺地域と連携したボランティア活動を計画し、発展させる。	C				
	人権教育課	生徒の実態の把握に努めるとともに、グループワークなどを通じて生徒の主体的な活動を促す。	生徒が作成した人権啓発標語や人権作文を人権HRにおいて効果的に活用し、アクティブラーニングの手法を取り入れる。また、昨今の情勢を踏まえた新しいテーマ・教材の提供にも努める。	B	B			
		教職員・保護者に各種研修会、学習会等への積極的な参加を呼びかける。	例年に比べて実施される機会が少なくなることが予想されるが、校内・校外での研修会や学習会に多くの教職員・保護者が参加できるように、情報の収集・伝達に努める。	C				

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
文化 広報部	総務 情報課	育友会と同窓会の活動を支え、保護者等に対して本校の取り組みへの理解を深めるよう努める。	学校内外の各部署との連携を密にし、育友会・同窓会の諸活動を活発に行う。また、学校新聞やホームページ等、様々な手段を通して広く本校教育の取り組みを保護者や地域の方々、中学生等に伝えていく。	B	B	コロナ感染対策を講じながら保護者や同窓会員に対して、本校の現状を理解していただいた。 機器更新作業は円滑に行われたが、コロナ禍により機器の納品が遅れ、不便な状態が続いた。移転に向けた機器管理が課題である。 文図関係については、コロナ禍の影響もあり、行事や活動の縮小を余儀なくされたが、ビブリオバトルや文化講座等の開催を通して生徒の知的関心のある程度は喚起することができた。	今後も育友会、同窓会において学校運営に理解と協力が得られるよう、様々な機会を捉え訴えていく。 来年度の校舎移転に向けて、情報機器を集約及びリスト化を進める。 文図関連の活動に関しては、校内にポスターを貼るだけでなく、教室掲示や、図書委員による放送機器を通じての呼びかけ等も視野に入れる。	コロナ禍の中、育友会・同窓会における種々の会議の開催に努力いただいた。今後は移転も視野に入れながら学校運営に関し、育友会・同窓会と学校が一層連携・協力する体制を構築していくことが必要となってくる。感染防止に配慮した図書館運営に工夫いただいた他、ビブリオバトルや文化講座等については、生徒の自主的な活動の重要性に鑑み、新型コロナウイルス感染防止に留意しながら、実施することができた。
		校務系端末、教育系端末を教育活動に生かせるよう整備し、安定したネットワーク運営を行う。また、ホームページ等を活用し、広報活動を充実させる。	県と連携をとりながら教員用新端末の安定した運営を目指すとともに、従来の生徒用端末についても問題に迅速に対応できるよう務める。また、新ホームページの運営においても作成、更新作業が迅速かつ活発に行われるよう、各担当部署との連携を密にする。	A				
	知的好奇心を喚起するような文化講座を計画し実行する	外部講師を招くことも視野に入れ、他分野横断、学際的な講座を実施する。	B					
	生徒たちが自分の好きな本について語る、ビブリオバトルを実施する。	文化講座、探求系授業、「ゲーテの会」などとも関連させながら、自由な発表の場を作り上げる。	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
保健 安全部	保健 体育課	新型コロナウイルス感染者と熱中症事故0を達成する。 生徒が健康診断や身体測定、体力テスト等の結果を踏まえて自主的に心身の健康を保持増進できるような能力や態度を育成する。	新型コロナウイルス感染予防と拡大防止のために実施可能な全ての取組を実践する。また、常に最新の情報を取り入れながら熱中症予防計画を策定し、学校全体で確実に取組を進めていく。 健康診断の事後指導を充実させ、疾病や発育・発達に関する課題の早期発見や対応を行う。特に、経過観察が必要な生徒の体重測定や個別指導を定期的に行うとともに教育相談委員会とも連携し、個人カードを活用しながら心身に配慮を要する生徒をより注意深く見守る。また、「保健だより」や掲示物等の内容を工夫する。	B	B	全校体制でコロナ感染予防・拡大防止に努めた結果、校内での感染拡大は防げた。熱中症も含めて対策をしながら、授業や特別活動等教育活動の質を出来るだけ落とさない方法を模索中である。 コロナ禍が各自の健康や体力を見直し、その保持増進に向けて主体的に取り組みきっかけとなった事を期待する。 スクールカウンセリングを受ける生徒保護者が増え、活用できている。教員も活用して助言など得るのが望ましいと思う。 総務委員が生活環境委員を上手く取り	With コロナ時代の学校について、創意工夫を重ねるしかない。また、コロナも熱中症も予防対策への慣れが緩みを生んでいる。常に新しい情報を取り入れ、計画を改善し続ける。 運動やスポーツの生活習慣化を目指して、時間と場所の確保や情報の提供など自主的な取組を推奨・応援する。 教育相談課と担任・学年との連携は概ねできているが、一層の協力が必要である。生徒の欠席が3日続いたら、とりあえず情報共有して対応したい。 来年度は校舎移転事業と新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら適切な環境	全校体制でコロナウイルス感染症予防・拡大防止について、関係の先生方の適切な計画の下、校内での感染拡大を防げたことは大きな成果であったと考える。コロナ感染症や熱中症の予防対策への慣れが緩みを生んでいる可能性もあり、今後、新しい情報を皆で共有し、常に改善していく必要がある。 スクールカウンセリングを受ける生徒・保護者数が増加傾向にある中、関係の先生方と学年主任・担任等、情報の共有や調整を密にしていきたい。適切な運営ができていることに感謝したい。今後、様々なニーズに対応するため SC の先生方と連携していただきたい。 仮設校舎の教育環境は依然として課題も残っているが、担当の先生方のご対応により、学校運営を順調に進めている。移転業務についても来年度の大きな課題となっているが今後積極的な対応を願いたい。
		全体及び個々の生徒について体力的な課題を明確にし、その克服に向けて自主的に体力トレーニングを行えるよう指導する。	体育の授業を中心に保健や体育理論の内容とも関連付けながら、生徒が自主的・積極的に体力向上を図れるよう指導を充実させる。特に、運動が苦手な生徒に対する指導を工夫する。	C				
	教育 相談課	生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学年・学校全体で協力して生徒を見守り、寄り添えるようにする。	生徒への対応、支援を迅速かつ的確に行えるように担当教員・学年と教育相談課が連携する。特に、不登校傾向を早期に把握し、予防的対応ができるように、日頃から欠席や遅刻の状況を確認し、教員同士の連絡をこまめにする。	B				
		教育相談の専門機関を積極的に活用して、生徒支援と教職員のカウンセリングマインドの向上に活かす。	スクールカウンセラーや教育相談アドバイザーへの連携を密にして、相談活動をして適切な助言を仰ぐ。また職員のスキルアップのための指導助言をいただく。	B				
環境 整備課	教師と生徒が共に協力し校舎内外の環境美化に努める。	総務委員や生活環境委員を中心に生徒たちと連携をとりながら環境美化活動への積極的な参加ができるよう働きかける。	B	B				

	防災意識の向上に努める。	昨年度の避難訓練の課題を踏まえながら「地震の見張り番」を活用したシェイクアウト・火災・避難訓練を実施する。	B		まとめ青丹祭や花壇整備など連携した活動ができた。 コロナ禍による3密回避の状況の中、工夫をしながら避難訓練とシェイクアウト訓練を実施することができた。	美化活動を心がける必要がある。	
--	--------------	---	---	--	--	-----------------	--

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策	
研究開発部	SSH事業推進課	科学技術系グローバルリーダーの育成を目的として、3年間を通して主体的に探究・創造する力を系統的に育む教育課程を実践すると共に、各種研究講座などの各種教育プログラムを推進する。	B	B	(SSH事業推進課) コロナ禍の影響を受け、多くの講座・プログラムが中止となった。そのような中でも、新規事業の立上げやオンライン化加速、連携校追加を遂行できた。今後、各方面に本校SSH事業への理解と関わりの深化を働きかけていきたい。また、急速に導入が進んだオンライン化について、臨場感の確保等が課題として残る。 (研究企画課) 新型コロナウイルスの影響でイギリスへの海外短期語学研修プログラムが次年度に延期になるなど、海外留学関係の業務を実施できなかった。ICT活用促進業務については、他課と連携し遂行できた。	(SSH事業推進課) 生徒・保護者向けSSH通信の定期配布や一般向けホームページの整理・充実を図り、本校SSH事業に関する情報発信を強化する。また、次期申請をにらみ、けいはんな地区の企業人材巻き込みも増強する。オンライン化については、実開催との効果的なハイブリッド化を目指す。 (研究企画課) 次年度、海外短期語学研修については目下実施予定であるが、本年度実施できなかったことを踏まえ、国内で実施可能なグローバル人材育成プログラムを検討する必要がある。	今後、次期申請に向けて、これまでの事業総括の上に種々の活動をより充実させてほしい。本年度、海外とのオンライン交流に取り組んでいただき、新たな交流の在り方を開拓いただいた。引き続き、多くの生徒がグローバルリーダーを目指せるようにオンライン交流も視野に入れながら連携校との交流はもとより、海外の国々との交流の場を広げていってほしい。また、SSP関連の学校設定科目について、さらに研究開発を進めていく中で、生徒の主体性を促す探究活動がさらに活性化するよう願う。
		情報化が進む国際社会の中で活躍する上で必要な資質・能力を育成するために、ICTなどを有効に活用しながら、科学英語講座やシンガポール海外研修を実施する。	B				
		これまで以上に広域的な視点で理数系探究活動の活性化を目指す「けいはんなサイエンススクールネットワーク」を構築する。	B				
	広い視野に立ち、異なる文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と積極性及び協調性を有するグローバル人材を育成する。	B					
	研究企画課	情報活用能力を高め、情報社会の進展に対応した教育を推進する。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、高校生としての自覚をもたせる。	生徒が自らの役割を自覚し、集団の一人として責任を持って、高校生として自律した行動をとれるようにさせる。	B	2ヶ月近くの在宅教育により、高校生としての基本的な生活習慣の確立や、クラスの仲間づくり、行事への積極的な参加等の遅れを当初は心配することが多かったが、生徒は徐々に個々の自主性を発揮し、高校生	学年集会や講演会については、仮設体育館、教室の電子黒板を、これまで通り状況に応じて効果的に使用していくことが求められる。次年度実施予定の修学旅行についても、今後	入学当初の臨時休校や分散登校等の実施で基本的な生活習慣の確立が心配されたが、丁寧なクラス経営及び学年運営により生徒の学校生活に安定感が出てきた。生徒が安心して学校生活を送ることができるために、引き続き、個人面談やクラス間の連携を通して生徒の把握に努め、細やかな指導をお
		理由のない遅刻や欠席をなくし、基本的な生活習慣を確立させる。遅刻・欠席の理由によっては、スクールカウンセラーと連携する。	B			
		自ら進んで行う挨拶を習慣づけ、明るい中にもけじめのある落ち着いた雰囲気学習環境を作らせる。	B			
	将来の目標を設定し、その実現に向けて、授業を大切にす	B				

て学力の一層の向上を目指す。	擬試験等を積極的に活用し、学習方法を点検させる。		活を充実させるようになってきた。ただ、11月の終わりから、様々な理由で欠席する生徒が出始めている。今後、保護者との連絡をさらに一層密にして、慎重に対応していくことが必要である。	の状況に応じて柔軟に対応していかなければならない。しかし、どの教育活動についても生徒の自主性・創造性を高めるという視点は忘れてはいけないので、学年集団のみならず各分掌、保護者との連携が肝要である。	願いたい。
	キャリア・マネジメント部と連携し、生徒が将来の目標を見据えながら主体的に学習に取り組めるよう、学年集会・キャリア学習HRを計画・展開する。	A			
	生徒の学校生活をより充実したものにするべく、各家庭との協力関係を構築する。	A			
学年団として意思の疎通を図り、まとまりのある教員集団を形成する。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・相談・連絡を密にする。また、教科、分掌、他学年の組織とも連携し、情報を共有する。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第2学年	基本的な生活習慣を身につけ、けじめのある生活態度を身につけさせる。	理由のない欠席や遅刻をなくし、基本的な生活習慣を確立させる。欠席や遅刻の理由によっては、スクールカウンセラーと連携する。	B	在宅学習・時差登校により感染予防を優先し、欠席理由や体調管理について保護者と連絡を密にとるようになった。欠席・遅刻者を学年主任で集約することで、生徒の情報を学年で共有することができた。進路指導、生徒指導のための対面による学年集会ができず、生徒に学校の指導が伝わりにくくなっているのではないかと。修学旅行については時期や行き先が二転三転したが、実施する方向で教員が協力できている。	感染予防を優先し、生徒に無理をさせないようにしてきたが、欠席理由（体調不良）の原因として、学習への不安などメンタル面での問題もあるように思われる。スクールカウンセラーにつなげるタイミングを逸しないようにする必要がある。来年度もオンラインによる集会になるのであれば、効果的な時間設定や内容を検討・研究した方がよい。	新型コロナウイルス感染拡大のため修学旅行の度重なる変更にもかかわらず、学校行事を重んじ、最後まで粘り強く検討を重ね、その実施に向けて取り組んでいただいた。スクールカウンセラーとの連携により、様々な面で悩みを抱える生徒に対してきめ細かい対応をいただいた。次年度においても丁寧な生徒指導と緻密な進路指導を一体的に進められたい。
		5分前行動やスマートフォンの利用マナーを徹底させる。	B			
	将来の目標を具体的に設定させ、持てる能力を発揮できる進路選択をさせる。	機会があるごとに個人面談を行い、適切な進路選択ができるよう指導する。キャリア部と連携をとり、適切な時期に効果的なホームルーム行事を計画・実行する。	A			
	情報を共有し、学年運営を円滑にする。	学年会議だけでなく、日頃からお互いに報告・連絡・相談を密にし、必要があれば教科・分掌、委員会とも連携して、生徒の情報を共有する。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第3学年	主体的な進路の実現	個別面談を通じて進路実現への意識をしっかりと持たせる。キャリアマネジメント部と連携をとり、適切な時期に効果的な進路行事を計画・実行する。	A	キャリア・マネジメント部の強力な協力と担任のきめ細かな指導等を得て、有効な進路指導ができた。本年度はコロナ感染予防という観点から遅刻や欠席を厳しく指導しづらい状況であった。	新しい生活様式を踏まえた学校生活のあり方を研究しなければならない。	年度当初の臨時休校や分散登校等による生徒の受験の不安が危惧されたが、各クラスにおいて丁寧な進路相談を心がけていただいた結果、生徒は安心して受験に取り組むことができた。特にキャリア・マネジメント部や教務部とよく連携を図り、学年が一丸となって新しい大学入試制度に臨む生徒を支えるとともに、課題を抱える生徒への学習指導も組織的に進めていただいた。
	適切な連携による生徒指導	学年会議等で生徒情報を共有し、必要があれば教科、分掌、委員会、スクールカウンセラーと連携する。生徒の変化に気づいた場合は、保護者との連絡を密に対応する。	B			
	けじめのある生活態度の養成	怠惰による無断欠席は1回でも厳しく指導し、遅刻は、5回、10回を基準に厳しく指導する。スマートフォンの利用マナーを指導する。	B			